

大垣市における

AI活用の現状と課題



大垣市のご紹介



■岐阜県の南西部に位置し、人口約16万人を擁する県内第2の都市です。

■平成18年3月の市町村合併により、全国的にも珍しい2重飛び地となっています。

■揖斐川水系の良質で恒温の豊富な地下水を有し、古くから「水都」と呼ばれています。
令和5年度から「水都大垣」のイメージを再び強化し、まちの魅力を高めるため、「**水都再生プロジェクト**」と題し、官民連携で様々な取り組みを進めています。



～水都を感じるまちづくり～

日常生活の中に「水のある風景」を作るため、大垣駅南口に井戸舟を整備



水都再生ロゴマーク

～水都を楽しむにぎわいづくり～

市民や来訪者に「水を見て触れる機会」を増やし、水辺環境を楽しんでもらうため川下りなどのイベントを開催



面積: 206.57km²

世帯数: 70,083世帯

交通: 名古屋まで約30分

人口: 156,488人

※令和7年4月1日現在

多様なAIツールの導入

大垣市では、各部署の特性に合わせたAI技術を導入し、行政内部DXを推進



AI-OCR(令和2年11月～)

紙文書のデジタル化



AI議事録サービス(令和5年4月～)

音声を自動テキスト化



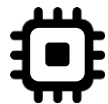
AI道路面診断システム(令和3年4月～)

AIが道路損傷を診断



生成AI(令和6年5月～)

自席のパソコンから3種類の生成AIを利用



AI-FAQ(令和6年8月～)

市の保有情報を学習させたFAQ



ChatGPT



Claude



Gemini

生成AIの導入効果

挨拶文やアイデア出し、予算資料作成、議会対応まで幅広く活用

66.5%

利用割合

662時間

月間削減時間

80.5%

満足度

職員の意識変化

- ◆ 難易度の高い業務への挑戦促進
- ◆ 思考の質と幅の向上
- ◆ 前向きな業務姿勢

生成AI活用における課題①

1. 生成AIに対する職員の温度差

- ◆ 生成AIを積極的に使う職員とそうでない職員の2極化が顕著



【活用しない主な理由】

- ・ 業務での活用方法が分からない
- ・ 回答の正確性に対する不安
- ・ セキュリティ上の懸念
- ・ 必要性を感じていない、利用する業務がない

2. 生成AI活用に対するサポートの必要性

- ◆ 期待する回答を得るためのプロンプトスキルの向上やファクトチェックの徹底が必要



【活用拡大に向けた必要なサポート】

- ・ ガイドラインの作成
- ・ 活用事例の共有
- ・ 利用研修会の開催
- ・ マニュアルの充実
- ・ システム環境の改善(利用しやすいシステムの導入)

生成AI活用における課題②

3. 回答の精度不足

- ◆ 生成AIが正確性、リアルタイム性、オリジナル性が欠如した回答を生成



【生成AIの回答品質に関する課題】

- ・ 事実と異なる回答の生成(正確性の欠如)
- ・ 学習時点での古い情報による回答の生成(リアルタイム性の欠如)
- ・ 自治体特有の業務背景や専門知識の不足による画一的回答の生成
(オリジナル性の欠如)

〈大垣市の目指す姿〉

AIによる自動化・最適化・予測分析等を通じた抜本的な業務改革

『DX』から『AX』へ

ご清聴、ありがとうございました。



大垣市公式マスコットキャラクター

「おがっさい」